



2011いわて国際交流

Vol.70

がんばれ岩手!

特集▶何げない日常の中で

岩手の国際交流・多文化共生



平成23年3月発行 2011いわて国際交流 Vol.70 (財団法人岩手県国際交流協会機関誌) http://www.iwate-ia.or.jp/ E-mail:kikanshi@iwate-ia.or.jp

あなたも賛助会員になりませんか

趣旨に賛同し、事業を支えてくださる賛助会員を募集しております。

賛助会費は、県内の国際交流・国際協力・多文化共生の公益目的事業に役立てられます。

会員の特典

- ①協会の発行物をお届けします。
国際交流情報紙「jien go」(隔月)
※学生会員はメールマガジンでの情報提供となります。
協会機関誌「いわて国際交流」
- ②協会主催の催し等の案内をいち早くお届けします。
- ③協会主催のイベントやセミナーの参加費が優待割引になります。
- ④「エスニックレストランマップ」をお届けします。提携している店舗で各種サービスが受けられます。
- ⑤「旅行優待マップ」をお届けします。提携している店舗で各種サービスが受けられます。
- ⑥税制上の優遇措置が受けられます。

年会費

- ①個人会員…1口 3,000円
- ②団体会員…1口 10,000円
- ③学生会員…1口 1,000円

協会所定の振込用紙で、指定の銀行よりお振込みいただくと手数料はかかりません。お気軽にお問い合わせください。振込用紙を送付いたします。協会でも受付いたします。

編集後記

- ▶中国からの中学生の受け入れや高校生のドイツ研修について取材して、私が中高生だったころよりもが学生同士の交流が盛んになっていることに大変感激しました。(E)
- ▶勇気を持って新しい場所に飛び込むと、そこには希望が持てる世界がありました。今の時代、言葉では知っているけど忘れ去られた「思いやり」。ほとんどの悩みを解決する、キーワードかもしれません。(non)
- ▶カメラマンとして取材にいった先で、中国から来た2人の中学生の生の声を聴いて懐かしかったです。また、日本と中国の学校の違い等を聞いて、楽しかったです。(陳茜)
- ▶たくさんのすてきな方々や魅力たっぷりの岩手に出会うことができました。反省点も含めたこの経験を生かして、これからも色々なことに興味を持って吸収していきたいです。(KE)
- ▶ドミトリさんの話は、今世界でおこっていることを解く鍵のように感じた。多文化共生の実践者。岩手にいて出会えたことに感謝。若い人と編集できたことも感謝。(森)
- ▶人と出会い、それを文章に起こしていく作業の楽しさ、難しさを知りました。文章を書くことにとことんのめりこむ自分がいました。自分が本当に「好きだ」と思えることにいつまでも素直でいたい。(遠山)
- ▶一人ひとり違う文化や常識を持つ人が集まる社会で「みんなが納得して仲良くできる方法」は、たぶんない。受容も拒否も、強制もあきらめも使い分けながら「ほどよく距離を保った」多文化共生が進めばいいな、と思います。難しいけど。(す)
- ▶校了を目前に大震災が発生し、急きょ、一部原稿を差し換えました。被災された方々にお見舞い申し上げます。当協会に届くメッセージや義援金に、「岩手」を思う気持ちは皆同じだと感じました。文化は違っても、「岩手」に生活する私たち。ともに県の復興に進んでいきましょう。(タ)

賛助会員サロン



平成23年3月に行われた賛助会員限定イベント「紅茶の美味しい入れ方」会場:ジョアン's キッチンCHATONS(シャトン)(エスニックレストランマップ掲載店)講師:石井ひろ子さん(CHATONS店長)

寄付のお願い

協会は、県民の方々が世界に目を広げ、国際社会で活躍できるよう、また、県内在住外国人の方々が生活しやすいよう、さまざまな国際交流・国際協力の事業を行っております。活動をより充実していくとともに、民間の立場から国際交流・協力を通して地域の発展や活性化に寄与して参ります。協会の活動を長期的に継続的に、かつ積極的に展開していくため、協会の財政基盤の充実を図ることが必要となっております。

趣旨をご理解いただき、ご協賛を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※協会は、「特定公益増進法人」の認定を受けており、寄付をされた方は、税法上の損金参入や寄付金控除が認められます。詳細は、お問い合わせください。

1991(平成3)年に当機関誌をボランティア編集委員で作成し始めて以来、千葉喜秋さんに校正などご協力いただきました。長きにわたり、ご指導いただきありがとうございました。今号より、高橋宏昇さん(岩手日報社)にご協力いただくことになりました。

国際交流センター(アイーナいわて県民情報交流センター5F)

■開館日/毎日 ■開館時間/9:00~21:30 ■休館日/年末年始

アクセスマップ

- 交通のごあんない
- ・JR盛岡駅から徒歩4分(東西自由通路経由)
- ・東北自動車道盛岡ICから車で8分



[編集]いわて国際交流編集委員会
 [編集長]谷藤厚子
 [編集委員]遠藤早苗/大森不二夫/小向里恵子/澤館信子
 鈴木いつみ/陳茜/遠山梓/林裕
 [発行]財団法人 岩手県国際交流協会
 〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号
 TEL.019-654-8900 FAX.019-654-8922
 [印刷]山口北州印刷株式会社
 〒020-0184 盛岡市青山4丁目10-5
 TEL.019-641-0585 FAX.019-648-1026

※本誌掲載の記事、イラスト・写真の無断転載、複写を禁じます。

がんばれ岩手! 海外からのメッセージ

岩手にゆかりのある方々から
メッセージが届きました。



クリントン・フェアバンクスさん
(アメリカ・ユタ州)
元岩手県国際交流員

私の愛する岩手県がこんなに被害を受けたことをテレビで見ると現実とは思えず、報道はとても怖い報告ばかりで、特に岩手県の沿岸の被害が大きく、涙がでました。

盛岡に住んでいた時、「岩手県人は『粘り強い!』」とよく聞きました。岩手の人には皆とても冷静で、自分が被害を受けても他の人の手伝いをするなど、皆さんの前向きな話を聞き、本当に感動しました。

私の勤務先は、日本赤十字社を通じて義援金1億円を送ることとしました。しかし、お金だけではなく人の手伝いも必要だと思います。近いうちに、職場から許可がおりましたら、岩手に行き、ボランティアをしたいと思っています。

毎日、皆様のためにお祈りしています。



耿非祥(こう ひしょう)さん
(中国山西省)
元岩手県国際交流員

東日本大地震に心よりお見舞いを申し上げます。

3月11日の東日本大地震について、岩手、宮城、福島は被害が大きいと報道され、すぐに私の頭には一年間勤務、生活した風光明媚であった岩手県、その地にいる友人たちを浮かべました。

被害の映像を見て、心が痛くて、涙がこぼれました。私は岩手県に滞在したことのある中国人の友人及び関係者に連絡し、情報交換しました。皆、岩手県の復旧に力を入れたいと同じ考えや同じ気持ちを持ち、募金を始めました。

友人たちと連絡が取れ、ほっとしましたが、一日も早く復旧されますようお祈り申し上げます。

日本加油! 岩手加油!(日本頑張れ! 岩手頑張れ!)



昨年、韓国教員訪日研修団で来県した教員の方々から、義援金9万円と岩手への応援メッセージを頂きました。(写真左側より)

ペ・ジャンリョルさん

美しい岩手県を守ってください。頑張ってください。

シン・チュンヒさん(団長)

困難な状況を若い日本の学生たちが必ず再建すると信じます。花巻高等学校 ファイト!

イ・ウンジュンさん

日本が以前の姿を取り戻すことを切に祈っています。ファイト!!

ヨン・ジェヒさん

頑張れ岩手県

キム・グァンホさん

必ず克服できると信じています。

Jim Vopatさん(アメリカ・イリノイ州)

「ペアレント・プロジェクト」創設者

日本の地震の壊滅的な状況に私は深く悲しんでいます。みなさんが無事であるかどうか心配ですし、日本でみなさんを支援する事ができたらと思うばかりです。みなさんの勇気とコミュニティの連帯は力強く長く続き、将来を再構築すると信じています。私の心はこの致命的な時でもあなたと共にあり、明るい日々が来るのを願っています。



ダグ・フェリアさん
(アメリカ・イリノイ州)

元外国語指導助手

岩手に住んでいた頃から10年ほど経ちますが、岩手での時間は大切な時間でした。

みなさん、希望を持ってください。岩手は復興し、より強くなります。多くの援助が続けられています。みなさんは一人ではありません。毎日、ここイリノイにいる友人たちはどのように支援するかを考えています。私たちができる事をして、みなさんの事実を伝えます。私たちの間に海があろうとも、私たちの心は近くにあるのです。



トン・ヌー・ジェム・トゥーさん
(ベトナム)

フェ外国語大学日本語学科副学科長

被災状況が詳しくわかってくるにつれ、被災者数が増えているのが、とても痛ましく思います。しかしながら、日本は一人ではありません。全世界が支援しています。頑張れ大好きな日本!

ベトナム フェ外国語大学(日本語学科の全員)教員チーム及び学生たちは日本に義援金という活動を発動しております。私たちの力は小さいですが心から日本に向けてお祈りしております。

この困難を早く乗り越えるようお祈りしております。

頑張れ日本!!! 頑張れ日本!!! 頑張れ日本!!!



李晏喬さん
(中国山東省)

元外国人相談補助員

東日本大震災に伴う災害で亡くなられた皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

三年間を美しい岩手で、やさしい岩手の方々にお世話になり、多彩な留学生生活を過ごしました。

大震災の想像を絶する厳しい状況を見て心が痛いです。しかし、この大きな苦難を乗り越えようとしている被災者の方々の姿に、畏敬の念を禁じえません。一日も早い復旧により、皆様が安心できる生活を取り戻されることを心からお祈りいたします。

勇敢な皆様はさらに美しい岩手を再建することができると信じています。

ほかにも、たくさんのメッセージ、義援金が届いています。心温まるメッセージ、義援金をありがとうございます。

当協会ホームページにも届いたメッセージ等を掲載しますのでご覧下さい。

謹んで大震災のお見舞いを申し上げます。

この度の東北地方太平洋沖地震・津波により、かけがえのない命を失われた方々の御霊に心から哀悼の意を表します。また、震災の被害に苦しんでおられる県民の皆様及び本県在住の外国人の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

本県では現在、達増拓也知事を先頭に官民の総力を挙げた救援復興活動が展開されておりますが、当協会も県の担当課と連絡を取りながら、外国人の方々への相談・情報提供等救援活動の一翼を担っております。

現在本県には約6,000名の外国籍の方々住んでおられますが、余震が続いている状況のもと、一時帰国された方々もおられます。一日も早く余震がおさまり再び皆様が相集い、以前のような穏やかな生活に戻れることを切に願っております。

近年、宮城沖地震がここ30年以内に99%の確率で起きると予想されておりましたが、今回の国内観測史上最大のマグニチュード9の巨大地震は、世界でも最大級のもので予想をはるかに超え、本県沿岸は壊滅的な被害を受けました。復興には長い時間と莫大な経費がかかると思われませんが、復興にあたっては、かつて東京市長として現在の「昭和通」にその片鱗を残し、また、1923年(大正12)の関東大震災の折、内務大臣兼帝都復興院総裁として活躍した郷土の先人後藤新平の気宇壮大な構想力を思い出すことも無駄ではないと思います。

阪神大震災の時に、マナーの素晴らしさで日本人は世界の人々を驚嘆させましたが、今回は再び称賛の声が寄せられています。世界中から支援の手も伸べられています。誠にありがたいことであり、その期待にお応えしなければならないと思います。東北人は粘り強さが身上であり、岩手県には「結い」の伝統もあります。在住外国人の皆様のご協力も頂きながら、手を取り合って郷土復興に取り組もうではありませんか。

私ども協会職員一同も微力ではありますが、これからも関係団体と連携を取りながら精一杯の努力をいたしますので、よろしく願いいたします。

2011年3月24日

財団法人岩手県国際交流協会

理事長 安藤 厚

何げない日常の中で 岩手の国際交流・多文化共生

県内に住む外国人は6200人を超え、身近に外国人と接する機会が増えてきています。県は2010年2月に「岩手県多文化共生推進プラン」を策定しました。同じ地域に住む者として、どのようにして互いの文化の違いを感じ、どのようにして互いを理解し合うのでしょうか。県内に住む外国出身の方との交流、生活などから国際交流・多文化共生を考えます。

*岩手県は、国籍や民族などの違いにかかわらず、全ての人がお互いの文化的背景や考え方を理解し、地域社会を支える主体として共に生きる、多文化共生社会の実現を目指して、「岩手県多文化共生推進プラン」を策定した。2014年までの5カ年とし、「コミュニケーション支援」、「生活支援」、「多文化共生の地域づくり」の三つの主な施策の方向などを設定した。



座談会

違っても おもしろい!

ちょっとした違いから起きる悩みや誤解。互いに知ってれば、理解が増します。モンゴルから来た留学生ラオグジャブ・ムンフバットさん、花巻で日本語の指導をしている穂高マツヨさんに、普段の生活の中にある経験談を交えながらお話ししていただきました。

言葉の壁

松岡洋子 日本語学習の支援について伺いたのですが、穂高さんは日本語を教えていてどんな日本語が必要だと思いますか。

穂高マツヨ 日常生活に使うさまざまな日本語がテキストには載っていないと思います。例えば、日本に3年ぐらいい住む韓国の方は、家族に「水をくんできて」と言われ、意味が分からなかったそうです。「入れる」の意味は知っていたけれど、「くむ」という言葉は知らなかったようです。最近ではテキストになくても、普段使う言葉を少しは日本語教室で教えるようにしています。

ムンフバット 私はモンゴルで日本語

の勉強をしてきましたが、日本に来てみると習った日本語で話している人は少なかったです。友達との会話の中で、丁寧語（です・ます調）で話していると、違和感があり距離を感じました。

松岡 大学の中でも留学生が丁寧語で話しかけると、日本人の学生が親近感を覚えず距離を置いてしまうことがあるようです。それが留学生には日本人は冷たいと感じる原因になり、友達になるきっかけがつかめないでいる心の壁の前に言葉が壁になってしまっている現実もあります。

穂高 今までの話を聞いて、言語によって敬語などの言葉の使い分けがなく、日本語を教える側として、そのことを理解して教えないければならないと分かりました。ムンフバットさんはモン

ゴルでは、ほとんど文字の学習だけだったのに日本語の使い分けがしっかりできていますね。

松岡 ムンフバットさんの場合、積極的に日本人と付き合おうとしていますが、ムンフバットさんにはどうですか。

ムンフ せっかく日本に来ているのだから、いろいろな人と交流しておきたいという気持ちはあります。

松岡 積極的な人はすぐ言葉を感じます。知り合いも増え世界も広がります。だからといって、消極的なのが駄目というわけではない。性格も含めて多文化なのであって、人間社会はいろいろな人がいて面白いと思います。消極的な人はその人なりにどうコミュニケーションが取れるか、考えていけばいいのではないのでしょうか。ムンフバットさんは日本に住んでいて困ったことや、悩んだことはありますか。

ムンフ 日本では自分から手を伸ばせば助けてくれる人がいますし、相談すれば相談に乗ってくれる窓口もあるので、今のところ悩みはありません。嫌なことがあったときは、なるべく自分の中のためにないようにすぐ忘れることにしています。現在、岩手大学にはモンゴル人の留学生が8人いますが、毎月集まって生活のことなどでお互い悩みを相談する機会もあります。

松岡 同じ言葉、同じ文化を持つ人同士の間でグループがあるといいのか

な。ただ、まとまったグループをつくるにしても、家が遠いとか同じ国の人がないとか、同じ国でも考え方が全く違うといった状況では難しいかもしれません。

穂高 あらたまってグループをつくるという形よりも、気軽に行って誰かとおしゃべりをして安心できるような場所があるといいと思います。

文化の違い

穂高 ムンフバットさんは文化の違いが原因で、誤解されて困ったことはないですか。

ムンフ 困ったというより、迷惑をかけたことはたくさんありました。以前、日本人の友達との待ち合わせに遅れて行ったら、冷たい目で見られました。モンゴル人は10時に集まるといえば、

みんなが11時に集まればいいと思っています。はじめのうちは日本語も分からないので、なぜ友達が怒っているのか分かりませんでした。今となっては、日本人の友達に怒られたわけも理解できます。モンゴルと日本では時間の感覚が違いますね。

んなどは音を立てて食べる習慣があります。他にも日本人はコミュニケーションとして頭を触ってきますが、今でもなんとなく嫌です。お辞儀もだいたいが慣れましたが、モンゴルでは敗北を意味するので、よほどでなければしません。

松岡 時間の感覚の違いは、特に地域差が大きいと思います。

穂高 それはすごく感じます。日本語教室の生徒の中には来るといって来なかったり、休むときに連絡がなかったりと最初は驚きました。外国の人はそういう時間の感覚で暮らしているのだと、後になって気がつきました。

松岡 気にするところがそれぞれの文化でかなり違うようですね。たとえば初対面の人と話をするとき、中国人は親しくなるためにプライベートな話をしますが、日本人はプライベートな話ではできるだけ避けたがります。いいことだと思っ

ては失礼なときがある。ムンフ文化の違いといえば、モンゴルでは食事のとき音を立てないのが常識です。一方、日本ではそばやうどん



が、相手にとっては失礼なときがある。ムンフ文化の違いといえば、モンゴルでは食事のとき音を立てないのが常識です。一方、日本ではそばやうどん

ムンフ 日本は団体行動をする国。他の国から来た人が自分の国はこうだからといってルールを守らなければ、団体行動はできなくなります。日本



ラオグジャブ・ムンフバットさん
Лхагважав Мөнхбат
岩手大学人文社会科学部法学・経済課程2年

モンゴル出身。盛岡に来て2年。特技はモンゴル相撲や柔道など、スポーツマン。将来は、名前を残るようなことがしたい、貿易会社もつくりたいと考えている。



相原正典先生。

インタビュー

相手を理解すること

「とっても楽しい」と、あふれんばかりの笑顔で語ってくれたのは、盛岡市立上田小学校日本語教室の担任、相原正典先生。さまざまな言語が飛び交う教室は、子どもたちにとって、かけがえのない場所。先生はその中心にいます。

居場所

「ぼくはあなたを見ているよ」。そばにいて、子どもたちにそう伝えます。評価することよりも、「待つこと」の方がはるかに大切です。彼らにとって居心地の良い、自由を感じられる、唯一の「居場所」になつてあげたい。毎日たくさんの異文化、たくさんの表情を近くで見ることが、とっても楽しいのです。

大切なことは、決して無理なストレ

心のつながり

上田小学校の児童たちはとても友好的です。彼らにとって外国から来た小さな国際人の存在は珍しくなく、ごく日常の光景なのです。日頃から国際交流に慣れているため、外国人の子どもたちが来ると、自然とあつという間になじんでしまいます。新

松岡 留学生を10万人から30万人に増やそうという政策（*）がありますが、まさにこういう感覚の人を増やすのがこれからは大事だと思います。今までは岩手に閉じこもってれば良かったけれど、これからは入ってくる人（留学生）も増え、その刺激を受け、出て行く人（日本から海外へ行く人）も増えるでしょう。

多文化の必要性

ムンフ 日本に来たばかりの留学生

*「留学生30万人計画」：2008年日本政府が発表し、「グローバル戦略」を展開する一環として、2020年を目途に30万人の留学生受入れを目指すもの。



穂高マツヨさん

はなまき日本語サポーターズ「ステップ」代表

モットーは「楽しく元気に根気よく！」
花巻市及び近隣に在住する外国人を対象に日本語指導や日本文化の紹介をし、在住外国人が気持ちよく社会生活を送ることができるよう支援している。
連絡先 はなまき日本語サポーターズ「ステップ」
〒025-0092花巻市大通1-2-21花巻市国際交流センター内
TEL:0198-22-7390 FAX:0198-22-7399

には、慣れるまでゆっくり教えるのが大事だと思います。違うことを頭ごなしに言うとうまくいかず、自分も日本に来て3ヶ月ぐらいいは大変で、帰りたいと思ったこともありました。それを乗り越えようと、逆にモンゴルに帰りたいと思っただけが不思議なくらいです。今では、モンゴルもこうだといいなと思うことがあります。

松岡 例えは？

ムンフ 時間を守る、お互いにみんなを尊重しあい団体行動をする、よろしくお願いしますという言葉。これはモンゴル語には訳せないですね。

松岡 よろしくというの、どの言語でも訳すのは難しいかも。

穂高 確かに英語にもありませんね。ムンフ よろしくという言葉、モンゴル語で表せたらいいなと思います。

松岡 逆にモンゴルのこういうところを、日本に取り入れたらいいのではと思うのがありますか。

ムンフ モンゴルの人はだいたいこの「大丈夫、大丈夫」と言う。日本人は心配性。ゆつくりのんびり考えてもう少しゆとりがあるとイメージが良くなると思います。

松岡 日本人は生真面目なところがありますからね。

穂高 日本だけで暮らしていると、そういうことに気づかないですね。自分としては真面目だと思ってるのでなく、それが当たり前だと思っ

ス子どもたちに与えないことです。そして、自信を与えてあげること。「知らないこと」と「分からないこと」は違います。あらゆることを経験させ、不安を取り除いてあげたい力を得れば、子どもたちはその力を使えるようになります。力で押さえつけてはいけません。個性をなくして、事を止めてはいけません。

小さな日本大使

子どもたちにこう尋ねます。「今日は、どんな一日があった？」。せっかくなので日本に来たのだから、彼らには日本を好きになってほしい。日本に滞在したという自分の過去を楽しく笑顔で語れるような、いい時間を過ごしてほしい。帰国したら、自ら進んで発信することのできる「小さな日本大使」になってほしい。だからこそ、子どもたちにはたくさんの「いいこと」や「いいもの」を目にして感じてほしい、そう思うのです。

てやっています。だからお互い自分を知らず知らずのうちに、文化の違う人と交流することが大事なのでしょう。

松岡 多文化共生では寛容が必要。キチキチしすぎるとけんかになったり対立したりして、お互い辛くなります。「何とかなる」ですむことが結構あるのではないのでしょうか。せっかくだけ違う文化の人がいるのだから、違いを楽しめるぐらいがいいと思います。いろんな文化の人が一緒にいるというのは、ある意味もともとの文化を壊すことでもあります。それが良いか悪いかは誰にも決められない。一人一人がこれは守りたいとか、これは崩したいとか決めていくしかないかもしれません。

共生の糸口

松岡 言葉の問題、習慣の違い、そういうものがいっぱいある中で、どうやって共生していくといいのでしょうか。

穂高 初めから自分の文化が一番と正しいと思ってしまうと、文化の違いを相手と理解することができないですね。相手を理解するには、ゆとりから始まると思います。

ムンフ 日本人にはもう少し自分の意見を言うってほしいです。意見を言う人と言わない人では、言う人の方が親しくなれる気がします。

松岡 相手に関心を持つかどうかで理解し合える度合いが異なりますよね。

しい子がやってくると「また来た！」と興味津々。帰ってしまおうと、「もう帰っちゃったの？」とさみしげな表情。「いつから教室に来られるの？」と瞳を光らせることもしばしばです。こういう環境は、少しでも早く子どもたちに学校になじんでほしいと願う日本語教室にとっては、とても心強いです。

子どもたちのコミュニケーションの支えには、言語には頼らない何かがあるようです。

一方、外国人の子どもたち同士のコミュニケーションも、とてもいいもの。もちろんけんかもありますが、彼らにしか分からない共通の気持ち、彼らを強く結びつけます。子どもたちにとっては、国なんて何の関係もない。大事なものは、相手を中心から理解することだと思っています。

これから

今いるところの文化、そしてそのルールを理解することが重要です。通用しないこと、して良いことなど、本人が気づき、分かることが、互いの理解につながるのではないのでしょうか。ここではそれを、教えます。

彼らの背中を押してあげる。「相手を理解すること」が出来れば、無用なトラブルも減っていくだろう、そう思います。



2011年1月
新しい児童をアフガニスタンから迎えて。

盛岡市立上田小学校 日本語教室

岩手県で小学校に日本語教室があるのは1校だけ。1996年、子を持つ留学生が岩手大学に増えたことをきっかけに設立され、現在は、外国出身の9人の児童のサポートを行っている。彼らの滞在期間は1週間～4年。どこの国の子どもたちでも積極的に受け入れ、国際交流の懸け橋として、個人個人に合わせた充実した指導を行っている。

盛岡市立上田小学校（児童数387人、坂本行雄校長）
〒020-0066 盛岡市上田三丁目16-45
TEL:019-623-3428 FAX:019-623-3429



松岡洋子さん

岩手大学
国際交流センター 准教授
専門分野:日本語教育、社会学

現在、ドイツ、フランス、韓国、台湾、日本の移民の言語政策を調査し、移民と受け入れ社会の共通言語構築について研究中。

文化の違いは何も外国人だけとは限らないのかもしれない。年齢の違い、性別の違い、習慣の違いなど、それぞれの違いを大事にしつつ、合わせられるところ、変えられるところを決めていければいいと思います。

穂高 いろんな人と接すると、自分が少しづつ広がっていくような気がします。違いを分かって言葉では簡単に言えるけど、実際はなかなか難しいですね。押しつけないで少しずつ分かっていくように、お互いが努力する必要があるでしょう。なかなか自分から話しかけることができない人は、何年住んでも日本語を覚えられません。そうすると、生活していく上で大変だと思います。消極的な人に周りの人がどう接していくか、これから考えていくことが大切なのではないでしょうか。